

ひまわり



令和6年度 第9号
大道小学校便り
令和7年2月4日
文責 山西 ふじ子

復活・挑戦



令和7年は「へび年」。1月8日の3学期始業式では、ヘビの「脱皮」から、「復活・再生」そして新しい自分への「挑戦」について話をしました。

1年前の1月1日に起きた能登半島地震は、子ども達の記憶にも新しいと思いますが、同じくらいの規模の地震が、2016年4月に熊本でも起きたことを記憶している子はほとんどいません。この9年で立派に復興が進んできた熊本のたくましさと、始業式の朝にみんなの笑顔に会える「普通」のことの素晴らしさについて再認識し、まだまだ復興半ばの石川の方たちに思いを寄せながら、新しい年を迎えてほしいと思いました。また、ケガや障がい、体格、言語等のハンディーを乗り越えて、世界の檻舞台で活躍しているアスリートや俳優を例に、困難を乗り越え新しい自分への挑戦を続けてほしいという話をしました。

児童代表作文発表でも、2年生栗原ちひなさんさんが「何度もくり返し覚えたかけざん九九への挑戦」を、4年生江崎ゆなさんが「苦手なことへの積極的な挑戦と低学年の見本になる」という決意を語ってくれました。また、6年生古閑しいまさんは、小学校生活を振り返り「たくさんの人の思いを受け、いろいろな経験をさせていただいたこと」への感謝と、一緒に頑張ってきた「すてきな仲間たち」への感謝の思いを発表してくれました。

2025年も、大道小学校のみんなのさらなる挑戦、成長を祈っています。



始業式もオンラインで行いました↑

食を考える

1月20日から始まる給食週間を前に、1月16日は、食を考える1日となりました。

朝活動では、給食委員会による児童集会を開催。給食委員会から、給食の歴史や給食の先生方の紹介がありました。毎日おいしい給食を作ってくれる先生方への感謝の気持ちを新たにしました。

4校時は、地域で酪農を営まれている若杉ふみ様をゲストに迎え「食育講話」を開催しました。酪農の仕事や牛の体について、牛乳ができるまでの流れなど詳しく教えていただきました。最後は、食肉加工センターに勤務する坂本さんの体験談「いのちをいただく」という絵本の読み聞かせをしていただき、私たちは動物の命をいただいて生かしていることを改めて学びました。

5校時は、3年生が、社会科の昔のくらしを知る学習の一環で、七輪でお餅を焼いて食べる体験を行いましたが、火をおこす段階で悪戦苦闘。学校応援団のみなさんが火ふき名人として協力してくださったおかげで、ようやくおいしいお餅にありつけたようです。「食」奥が深いです。



給食委員会による給食集会↑



若杉ふみ様の講話↑



3年生:七輪の火起こし体験↑